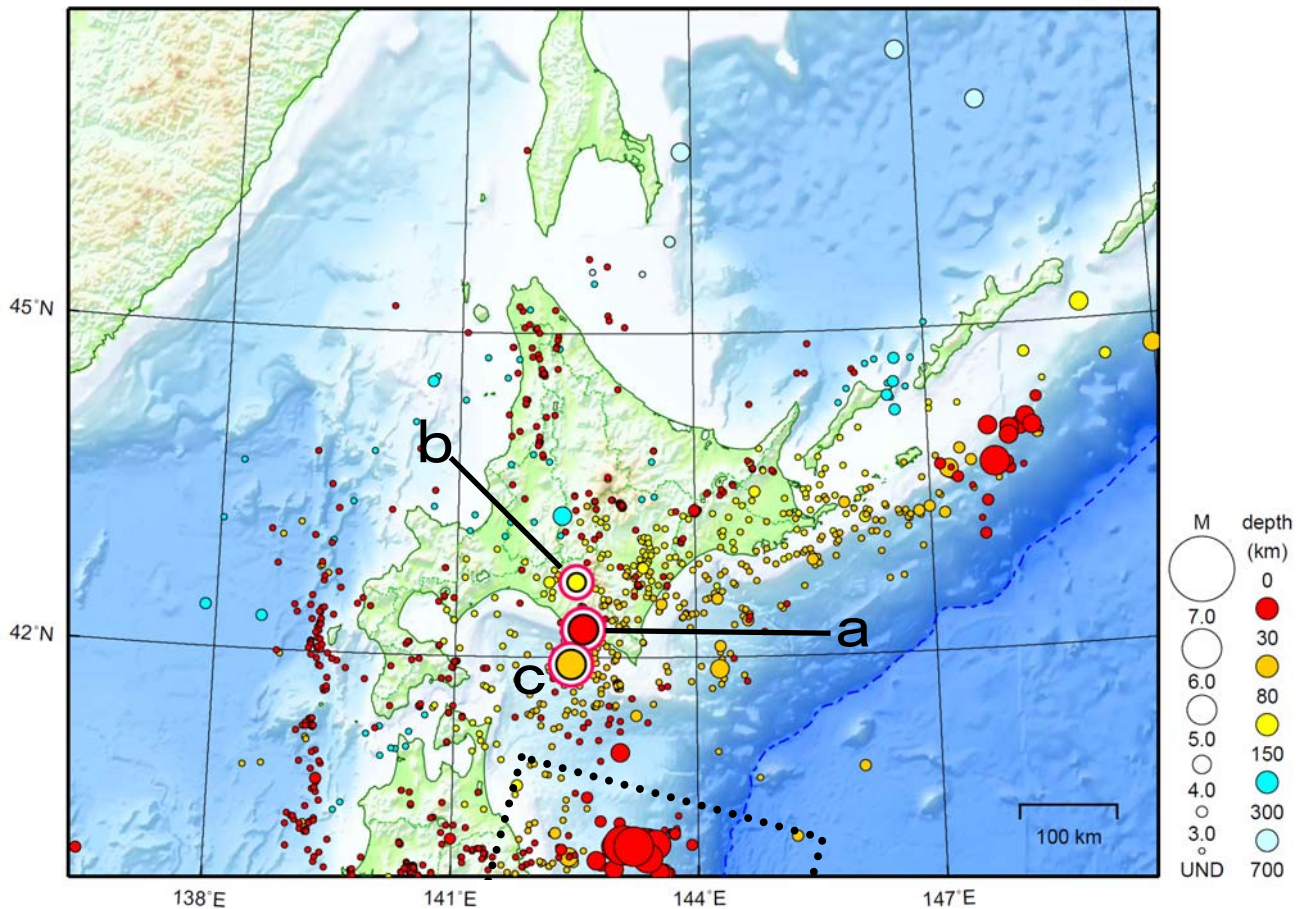


北海道地方

2011/09/01 00:00 ~ 2011/09/30 24:00

N=1827



※ 点線は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す

地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a) 9月7日に日高地方中部で M5.1 の地震（最大震度 5 強）が発生した。この地震の発生後、震度 1 以上を観測する余震が 9 月末までに 52 回発生している。

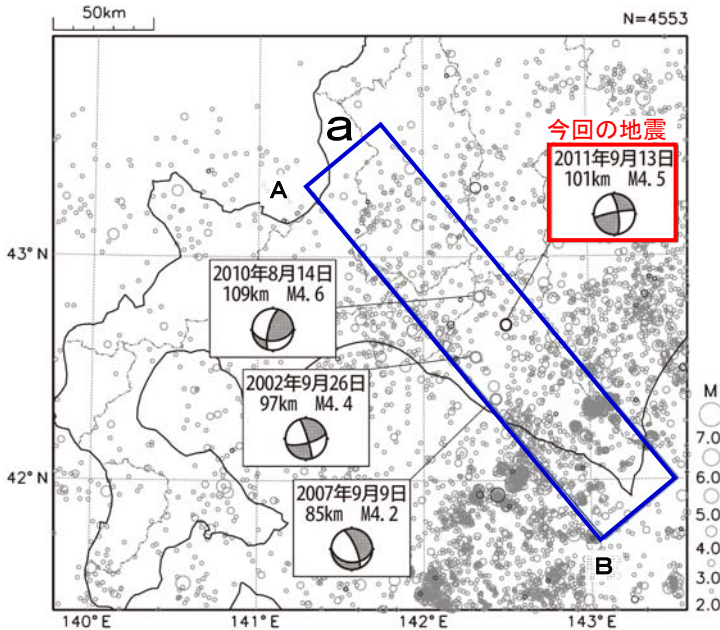
気象庁はこの地震に対して[浦河沖]で情報発表した。

- b) 9月13日に日高地方西部で M4.5 の地震（最大震度 3）が発生した。
c) 9月18日に浦河沖で M5.0 の地震（最大震度 4）が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

9月13日 日高地方西部の地震

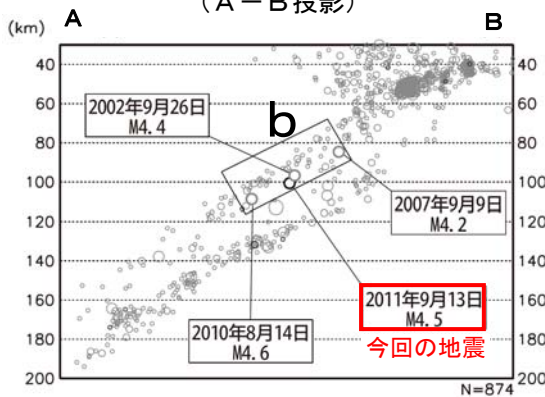
震央分布図
(2001年10月1日～2011年9月30日、
深さ30～200km、 $M \geq 2.0$)



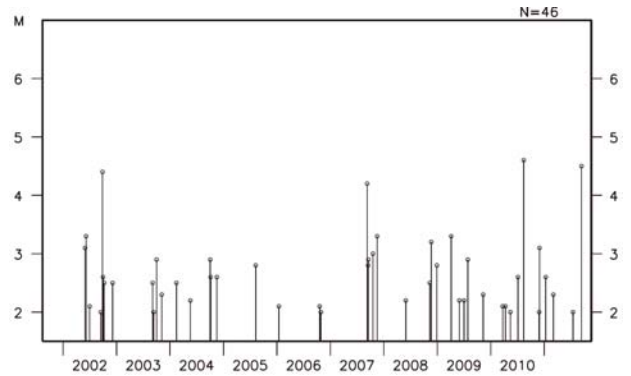
2011年9月13日01時49分に日高地方西部の深さ101kmでM4.5の地震 (最大震度3) が発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部 (二重地震面の上面) で発生した地震である。

2001年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域b) ではM4.0以上の地震が時々発生しており、2010年8月14日には深さ109kmでM4.6の地震 (最大震度3) が発生している。

領域a内の断面図
(A-B投影)

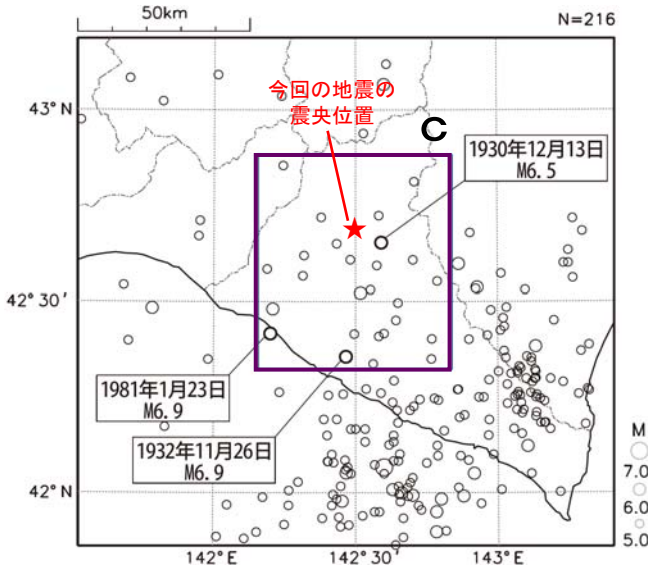


領域b内の地震活動経過図



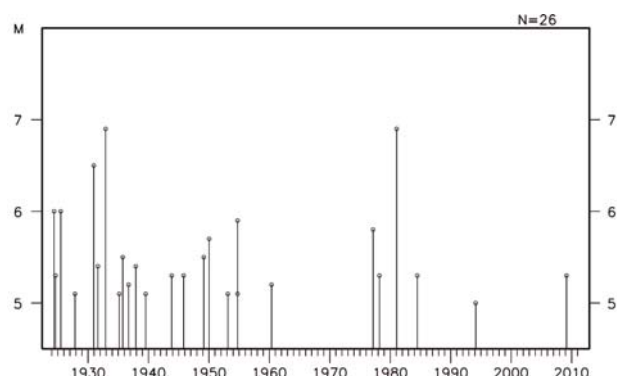
震央分布図

(1923年8月1日～2011年9月30日、
深さ0～200km、 $M \geq 5.0$)



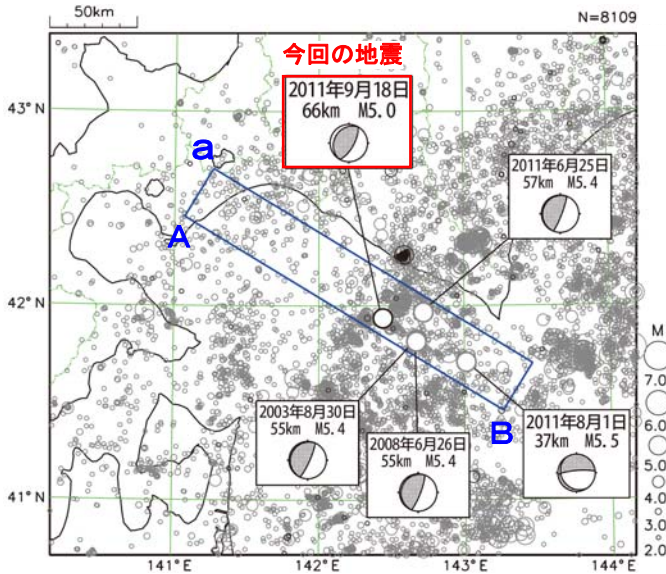
1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (領域c) ではM6.0以上の地震が時々発生しており、1981年1月23日に発生したM6.9の地震 (最大震度5) では埋設水道管の破裂や物体の落下などの被害が生じた (「最新版 日本被害地震総覧」による)。

領域c内の地震活動経過図

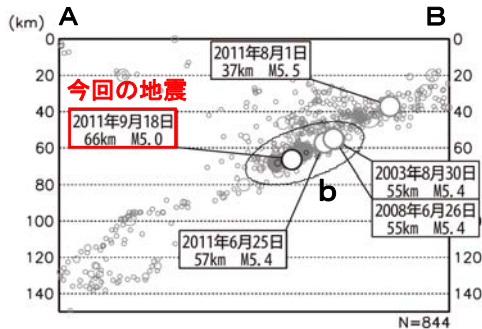


9月18日 浦河沖の地震

震央分布図(2001年10月1日~2011年9月30日、
深さ0~150km、 $M \geq 2.0$)
2011年9月以降の地震を濃く表示

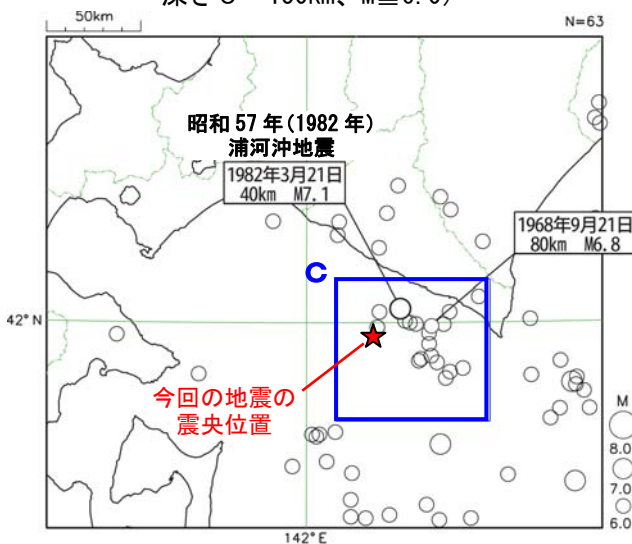


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年8月1日~2011年9月30日、
深さ0~150km、 $M \geq 6.0$)

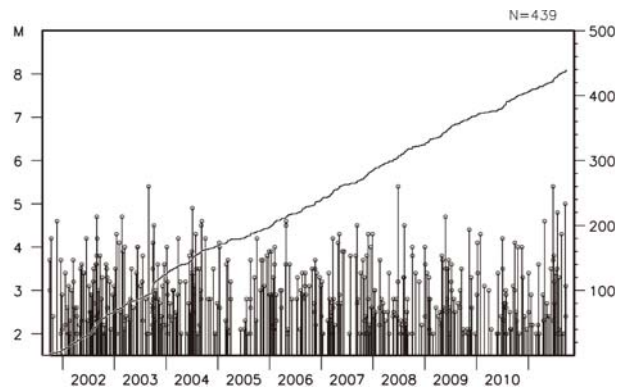


2011年9月18日19時39分に浦河沖の深さ66kmで $M 5.0$ の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

この地震の震央から約25km東の深さ57kmのところでは、6月25日02時39分に $M 5.4$ の地震（最大震度3）が発生している。この地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

2001年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、 $M 5.0$ 以上の地震が時々発生している。

領域b内の地震活動経過図及び回数積算図



1923年8月以降の活動のうち、今回の地震の震央付近（領域c）で発生した「昭和57年（1982年）浦河沖地震」（ $M 7.1$ 、最大震度6）では、負傷者167人、建物全半壊25棟の被害が生じたほか（「最新版 日本被害地震総覧」による）、北海道から東北地方の太平洋岸で津波を観測した（津波の最大の高さ：浦河78cm（検潮記録））。

領域c内の地震活動経過図

